

⑥ 「共に生きる教会を目指す」について

いわゆる《ordinarization》と理解しています。あるいは“including”です。障がいを負う人々が、教会という宣教の場で、当たり前前に受け入れられ、いや教会が彼らによって当たり前前に自分が自由に生きられる場として受け入れられる、共に生きる、という現実を実現したい、という願いです。教会はまだ、どちらかというと閉ざされた自己完結型の世界で、そこに入ることは非常に敷居（バリア）が高い、という意味で、教会の現状的なスタンダードでは、障がいを負う人々は排除されかねず、福音書に証しされるイエスの現実程遠い、という自己認識です。ですから、この開かれた、受容的な教会はこれから「目指されなければならぬ」と考えているのです。